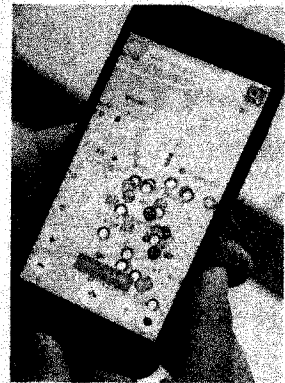


「車いすでも行けそう」共有

車いすで通った道を記録して共有し「ここなら行ける」と分かる範囲を広げていこう。そんな願いを実現させるため、バリアフリーマップ作製アプリ「WheelLog! (ウィーログ)」ができた。発案者で難病の遠位型ミオパチー患者会(NPO法人PADM)代表織田友理子さん(三宅)千葉県船橋市は「どこがバリアフリーであるのかを可視化できると、情報をもっと集めたい」と話す。

(神谷円香)

難病患者ら 走行記録アプリ作成



アプリ「WheelLog!」の画面表示

アプリは衛星利用測位システム(GPS)を活用。スマートフォンで起動させて持ち歩けば、通った道がマップ上に記録され、走行ログとして公開される。「ここは急な坂道だから注意」「トイレが近くて便利」などの情報も入力できる。主に車いす利用者の使用を想定するが、健常者が車いす通行をイメージして記録することも可能。五月の公開後、現在約二千人が利用する。



渋谷駅前のスクランブル交差点を進む大塚さん。妻の順美さんがスマホを持ち気づいた点をメモする＝東京都渋谷区で

宮市のNPO法人代表で車いす利用者の大塚訓平さん(三宅)は妻の順美さん(三宅)と参加。坂の多さから「障害者になってから避けていた」という渋谷の街では、急な上り坂を苦勞して越したり、緩い下り坂でタイヤが滑ったりする場面も。大塚さんは「車いすの人を皆が見掛けるようになれば、どつという手助けが必要か分かってくるはず」と語る。

織田さんは「アプリ使用者が少ないせいもあるが、地方はまだほとんど走行ログがない。健常者もぜひ情報を入れてほしい」と呼び掛ける。アプリは「WheelLog!」で検索し無料ダウンロードできる。